

高田 毅士 (たかだ つよし)

(国研)原子力研究開発機構 安全研究・防災支援部門リスク情報活用推進室 室長

東京大学名誉教授 工学博士



【専攻分野】 地震リスク評価、信頼性工学、原子力安全

【本会活動】

理事 (学術) : 2012.6-2014.5

原子力発電所の地震安全問題に関する調査委員会 (委員、幹事) : 2008.10-2012.3

原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会 (幹事) : 2012.9-2015.3

原子力発電所の地震安全の基本原則に関わる調査委員会 (委員長) : 2016.4-2019.3

17WCEE 幹事 (学術プログラム委員会委員長) : 2018.4-2022.3

【略歴】

1977年3月 名古屋大学工学部建築学科卒業

1979年3月 名古屋大学大学院工学研究科建築学専攻修了

1979年4月 清水建設株式会社入社

1986年8月 米国コロンビア大学土木工学科客員研究員

1988年1月 米国プリンストン大学土木工学科客員研究員

1998年3月 清水建設株式会社退職

1998年4月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻助教授

2001年12月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻准教授

2001年10月 ドイツ・バウハウス大学ワイマール校客員教授

2004年2月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授

2020年3月 東京大学退職

2020年4月 日本原子力研究開発機構リスク情報活用推進室室長(2020～現在に至る)

(現: 東京理科大学非常勤講師、建築研究所国際地震工学センター講師(2020 まで)、

JASMiRT 代表、IASMiRT 副会長、IASSAR 理事等)

【受賞】

1995年8月 ICOSAR junior research award 受賞

2013年3月 日本原子力学会社会・環境部会賞優秀発表賞受賞

【委員会活動 (直近5年間)】

日本地震工学会: 原子力発電所関連委員会 (前掲)

日本建築学会: 構造本委員会、荷重運営委員会、応用力学運営委員会、信頼性工学小委員会、地震外力小委員会、建築構造設計の数値解析技術 WG、等

土木学会: 原子力土木委員会 (副委員長)、示方書連絡会議/設計の基本 WG

日本原子力学会: 地震 PRA 標準作業会 (主査)、1F 廃炉分科会構造性能委員会 (主査)、標準委員会リスク専門部会、等

日本学術会議: 原子力連絡委員会

原子力規制委員会: 原子炉安全専門審査会、核燃料安全専門審査会

文部科学省: 地震調査推進本部確率的地図高度化委員会

国土交通省: 建築住宅性能基準検討委員会

ISO:ISO/TC98 国内委員会(委員長)、ISO/TC98, SC3(Chairman), SC1, SC2

JCSS (Joint Committee of Structural Safety)

【著書および主要論文（代表的なもの 10 編以内）】

- 1) 日本建築学会、建築物荷重指針・同解説、2004.3（共著）、2015.3（共著）刊行
- 2) 八百山太郎，肥田剛典，高田毅士，広域地震災害における構造物群性能監視 拡張相関異常検知の適用性評価，日本建築学会構造系論文集，第 85 巻，第 767 号，pp.39-49，2020.1
- 3) A.Yazdani, MS.Shahidzadeh, T.Takada, Bayesian networks for disaggregation of structural reliability, Structural Safety, Vol. 82 2020
- 4) 肥田剛典，大野敦史，糸井達哉，高田毅士，地震時人的被害予測に向けた台車型二重倒立振子による人体の地震応答解析モデルの構築，日本建築学会構造系論文集，第 84 巻，第 765 号，pp.1377-1387，2019.11
- 5) 松原稔、肥田剛典、高田毅士，地域減災設計の実現に向けた震度曝露人口適合想定地震の選定手法，日本建築学会構造系論文集，第 82 巻，第 738 号，pp.1155-1163，2017.8
- 6) A. Nishida, S. Igarashi, S. Sakamoto, Y. Uchida, Y. Yamada, K. Muramatsu and T. Takada, HAZARD-CONSISTENT GROUND MOTIONS GENERATED WITH A STOCHASTIC FAULT-RUPTURE MODEL, Nuclear Engineering and Design, Nov. 2015
- 7) 田中浩平，高田毅士，既往観測波形インベントリーを用いた地震動予測のための波形選定手法の提案，日本建築学会構造系論文集，No. 646，pp. 2219-2225，2009
- 8) T. Takada, S. Kumitani, Probabilistic Assessment of Building Damage Considering Aftershocks of Earthquakes, International Journal of Engineering Under Uncertainty: Hazards, Assessment and Mitigation, 1(3-4), pp.183-187, 2009.8
- 9) M. Wang, T. Takada, A Bayesian Framework for Prediction of Seismic Ground Motion, Bulletin of the Seismological Society of America, Vol.99, No.4, pp.2348-2364, 2009
- 10) M. Wang and T. Takada, Macro-spatial correlation model of seismic ground motions, Earthquake Spectra, Vol. 21, No.4, pp. 1137-1156, Nov. 2005

【所信】

2001年に設立された日本地震工学会は、建築・土木・地盤・地震・機械などの各分野を横断して地震工学という総合学を目指すユニークな学会であり、学会会員や関係者各位の様々な活動や支援に支えられ発展してきました。昨年9月には、世界地震工学会議(17WCEE)を仙台にて開催することができました。私は学術プログラム委員長という大役を仰せつかりコロナ禍であっても無事に務めを果たすことができ、これも関係各位のご協力あってこそと肝に銘じております。

近年の社会環境は著しく変化しています。東日本大震災では大津波の発生と福島第一原子力発電所事故が起これ社会に大被害をもたらし、現在においても復興活動が続いています。また、近年多発する地震においては地震後停電や基幹交通ネットワークの障害など社会活動のBCPの課題も浮き彫りとなっており、国土の強靱化とともに社会機能の継続的維持も地震工学の極めて重要なテーマであります。

こうした複雑化、多機能化、相互依存化が極端に進む現代社会は地震工学に新しい要求を突き付けているように思います。17WCEEでは今後20年後の地震工学の進むべき方向性について国内外の若手研究者による特別セッションが企画され、旧来の分野を超えた広範囲の連携と、より高度で全体俯瞰的視点が必要であることが指摘されました。

これには、地震工学会の設立理念である「分野連携」を一層進める必要があり、1) 連携のプラットフォームをより確固としてゆくこと、2) 連携の目的を共有することが重要と考

えております。

こうした活動がスムーズにできるようにすると共に、会員一人一人のニーズに応えられるようにしてゆくことが一層必要であります。日本地震工学会の今後のさらなる発展と新しい改革に向けて微力ながら貢献する所存であります。どうぞよろしくお願いいたします。